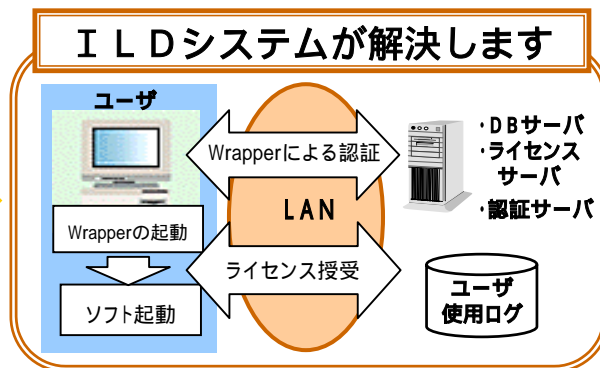




ILD エンタープライズ システム

ソフトウェアのライセンス数は適正ですか？

数が多すぎて不要なライセンスがある
ピーク時に足りないライセンスがある
部門ごとの使用頻度がわからない
必要な部署に予算の振り分けができない
設計・製造コストのうち、ソフトウェアの割合が不明
ソフトウェアの使用目的が管理できない



高価なソフトウェアを必要とする会社、部門では、ソフトウェアを有効に活用し、効率的に業務を遂行するためにライセンス管理は欠かせないものとなっているかと思えます。そのソフトウェアのライセンス管理にライセンスログを手作業で集計したり、独自システムを作成したりしてご苦労されているのではないのでしょうか。

そのような環境下でのユーザー様においては、コストを意識した効率の良いソフトウェア資産の運用が求められています。そこで今、ライセンスを集中管理して利用効率を高めると共に、ソフトウェアごとの利用部門、利用プロジェクト、また利用目的などの詳細、及び適切な集約データが必要となっているのではないのでしょうか。

ILDエンタープライズシステムはお客様のそうしたニーズにお答えします。

ILDシステム効果

- Web画面から最新の利用状況が見られる (部門/ツール/ユーザー)
- ツールの使用目的が把握できる
- 負荷分散ツールのログ情報をレポートに反映することが可能
- 社内ASPシステムとして運用可能

ソフトウェアごとの使用履歴から、適正なライセンス数の把握が可能となります。

不必要に多数保有しているライセンスは、削減させることにより、経費の削減が図れ、また、使用頻度の非常に高いライセンスは、その数を増加させることにより、設計作業を効率化させることができます。高価なソフトウェア管理に、有効な管理資料を提供できます。

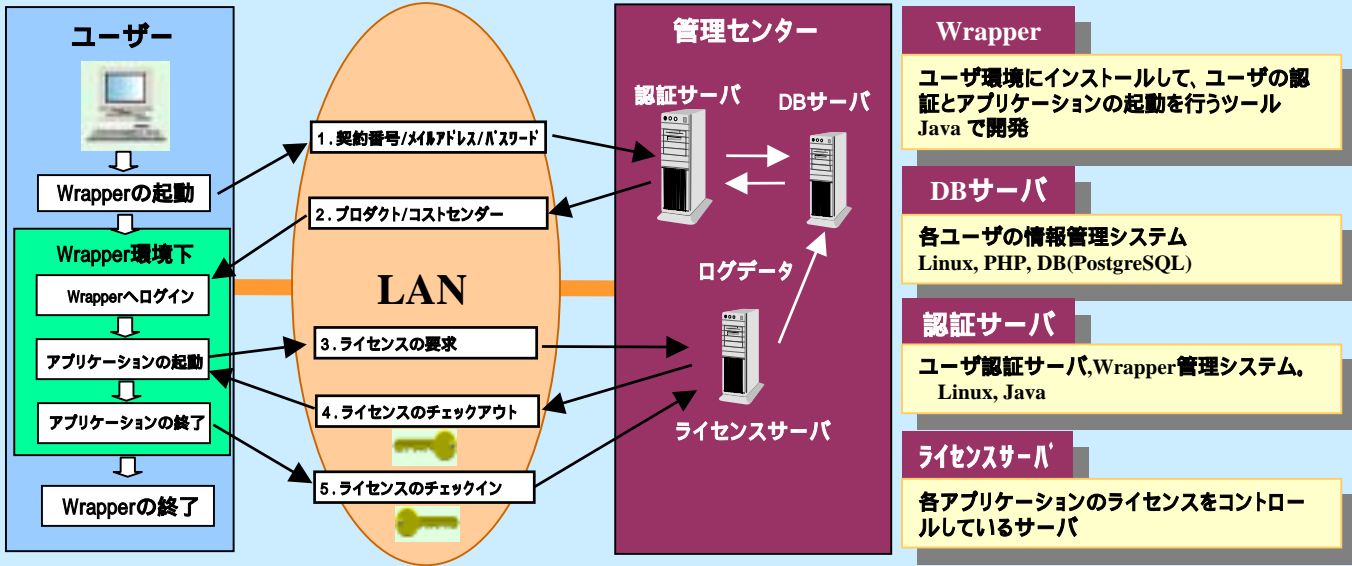
部署ごとの集計が可能なおことから、費用負担の振り分けが可能になります。

認証されていないユーザーの使用を阻止することができます。

プロジェクト・製品番号ごとの使用ツールの使用状況が把握でき、製品ごとの正確な設計原価の計算が可能になります。

部署ごとに、使用できるソフトウェアのライセンスの上限を設定し、それを上回る利用を制限することが簡単に行えます。

ILDエンタープライズシステム概略図



ソフトウェアを実行するにあたり、全てWrapperというソフトを介して行われるように設定し、起動～終了時刻を正確に記録いたします。各ソフトウェアの個別利用情報が、ユーザ、所属部署、プロジェクト・製品番号などのキー情報と共に、コンマ秒単位で記録されます。集計時には、各ソフトウェア単位に、ユーザごと、部署ごとの各時間軸(日、月、年など)集計表示も可能であり、また、プロジェクト・製品番号を切り口とした集計表示も可能です。

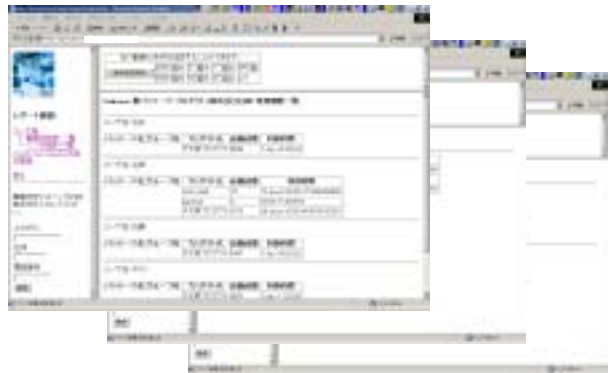
レポート機能

Webブラウザより各種レポート閲覧、CSVファイルへの書き出しが可能

事業所別、各ユーザ、プロダクト、コストセンター



ベンダー別、各ユーザ、プロダクト、コストセンター



レポートのカスタマイズ例

事業所の一覧を表示し、指定した事業所でのユーザごとのソフトウェアの利用レポート例。



カスタマイズについてはお気軽にご相談ください。

対応プラットフォーム

認証サーバ、DBサーバ: RedhatLinux 7.2 ~

クライアント(Wrapper): Solaris 2.6, 7, 8

RedHat Linux 6.2 ~

HP-UX 11

WindowsNT/2000(2003/5 リリース)

開発元、販売元

株式会社クレディスト

〒141-0031

東京都品川区西五反田2-29-9

五反田アルファビル11F

TEL: 03-5487-3111

FAX: 03-5487-3113

MAIL: sales@credist.co.jp

URL: http://www.credist.co.jp